

<p>上海通信 上海日本人学校 浦東（プードン）校</p>	<p>上越市立城北中学校生徒向け通信 松井的上海</p>	<p>第15号 令和3年10月4日 発行者 松井 明</p>
---------------------------------------	---	--

お世話になっている中国の人々②

鄭林美（コウ リンミ）先生です。私の中国語の先生です。私が上海に赴任した2019年4月からマンツーマンで中国語を教えていただいています。中国語学習は発音（拼音 [ピンイン] と言う）を覚えることから始まります。中国語の発音は、日本語にはない発音が多く、とても苦労しました。まず、鄭先生の発音が聞き取れません。ようやく聞き取れても、私が発音すると「違う」と言われる。言われた通りに発音しているつもりなのですが、なかなか正確な発音ができません。そのうち、頬や舌が痛くなってきます。中国語の学習を諦めかけたときもありましたが、鄭先生の励まして何とか続けることができました。

上手く発音ができないうちは、実際にお店やレストランで中国語を使って話しても通じません。日本語なら少しくらい発音が下手でも、外国人ということが分かれば、少しは通じると思うのですが、中国語は発音がとても大切で、少しでも違うと全く通じません。中国で生活していくためには中国語の習得は不可欠です。鄭先生の授業を辛くても続けていくと、発音の指摘も少しずつ減ってきました。すると、現地の人々と中国語で少しずつコミュニケーションが取れるようになってきました。

鄭先生は、湖南省の出身です。湖南省は上海から西へ1,000km以上離れた省です。子どもの頃から日本のアニメが好きで「ONE PIECE」や「NARUTO」をよく観ていたそうです。日本のアニメがきっかけで日本語に興味をもち、20歳のときに湖南農業大学日本語専攻で日本語の基礎を学び、24歳で日本へ渡り、武蔵野学院大学国際コミュニケーション科に2年間留学しました。その後、上海にある松下電器（パナソニック）に入社、しばらくして、自分の語学力をさらに生かしたいと日本人向けの中国語の先生になったそうです。

上海で生活をしていると、日本語を話すことができる中国人が多いことに驚かされます。私たち家族が地下鉄やバスで話をしていると（もちろん日本語で）、見ず知らずの中国人に日本語で話しかけられることもあります。また、上海をはじめ中国では、留学をする学生が非常に多く、日本へはもちろん、アメリカやヨーロッパ、オセアニアなど、世界各地で勉強しています。その学生の多くが中国に戻り、外国で学んだ知識や経験を生かして仕事をしています。

私は中学生の時、英語が苦手でした。理由は英語の必要性を感じていなかったからです。「自分は外国へは行かないし、日本へ来る外国人が日本語を覚えればいいんだ。」「なぜ、自分が英語を勉強しなければいけないんだ。」と思っていたのです。しかし、それは間違っていました。インターネットの普及や交通網の発達で、世界の距離は驚くほど近くなっています。その中で、自分の国だけの考えや行動では、今のグローバルな時代を生き抜くことは難しいです。様々な国民や人種、立場の人々とどのように共同、共働、協働して、生きていくべきなのかを考えなければなりません。この歳になっても、まだまだ自分が学ぶべきことは多いです。



鄭林美（コウ リンミ）先生（左）と私（右）